

将来に向けた自立を促すイベント【名古屋市】

総事業費	6,692 千円
交付金額	2,486 千円

地域の実情と課題

- 「ウイズコロナにおける女性の生活・就労等実態調査」において、特に非正規職で子どもを持たないシングル女性は他と比べて「孤独を感じた」(21.6%)傾向の傾向が高かった。
- R3「女性のつながりサポート事業」のアンケート結果において、コロナの影響と考えられるものとして、勤務先の経営が厳しいことや仕事が減少したこと、転職・就職が厳しいことについての不安の声があった。
- 「何が不安かわからない」「モヤモヤ」など不安な内容を言葉にできていない方もみられ、様々な困難を相談することもできずに一人で抱えている方の存在も明らかとなった。

目的・目標

- 相談に至っていないものの、経済的困窮や社会とのつながりの希薄化などにより、現在・将来の生活への不安を抱えていても、誰かに相談することが困難となっている方や、抱えている困難を言語化できていない等そもそも相談できる状態にいない方がいることから、安心して過ごせる場を提供し、人との交流等を通じて困難を抱える女性が経済的・精神的自立に向かうための力を育ていけるよう、他の機関とも連携しながらサポートしていく。

事業の特徴

コロナ禍における女性のつながりサポート事業の利用者を主な対象とし、様々な困難や不安等を抱える方のエンパワーメントを図り、自立に向けたきっかけとなるようなイベントを開催する。また、イベントに参加することをきっかけに、同じ悩みを持つ方や、同じ境遇の方とつながれるよう仲間づくりをし、困難を抱える女性が将来に向けた自立を自身で描いていくよう促した。

事業の効果

対面・オンライン合計38回開催。事業目標である「事業への延べ参加者数360人」を大幅に上回る延べ532人にご参加いただいた。人気のあるイベントは申込率が定員の260%を超える場合もあり、適宜可能な範囲で定員を増加するなどの対応を行った。また、連携している「つながりサポート事業」との両方の参加も多く、お互いに参加するきっかけとなり上手く連携できた。アンケートからは新たな学びや気づきを得た前向きな感想が多々見受けられた。

連携団体

連携団体：経営者団体、教育機関、市民団体（女性団体、男性団体等）、行政機関の全47団体

今後の課題

キャリアデザインや学び直し、アサーティブコミュニケーションなどの直接的なものに加え、その前のセルフケアや自己分析、心身への学びなど「将来に向けた自立のためのイベント」の種類は多岐に渡り、一度学ぶことで様々な分野へ関心が広がるのが分かった。今後も継続的かつ多彩なイベントを開催し学びを止めることなくエンパワーメントを図ることが課題である。

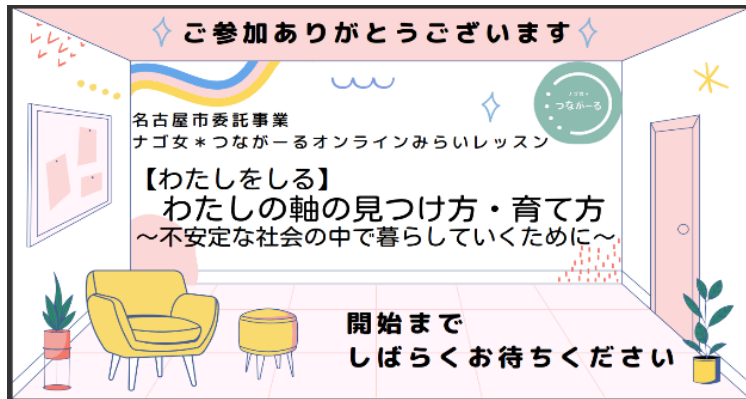
将来に向けた自立を促すイベント

コロナ禍における女性のつながりサポート事業における居場所の利用者を主な対象とし、相互の事業での情報共有をしながら利用される方の置かれている状況に応じた様々なセミナー(セルフケアやキャリアプラン等)を展開することで、エンパワーメントを図り、将来に向けた自立を自身で描いていくよう促した。



△居場所・対面イベントの会場

利用者が安心できる環境づくりに努めました



△オンラインイベント画面

対面イベントだけでなく、オンラインイベントも行いました。



△主なイベント内容

様々なイベントを企画しました。

新たな学びや気づきを得た前向きな感想が寄せられました。